

## 前言

以下は、平成三十一年一月三十日に一般社団法人倫理研究所において私の行った記念講演に大幅に加筆修正をほどこしたものです。いまから五年前の同研究所での講演、『両陛下 虔みと愛の歌』の続篇として位置づけられると思います。

折しも宮内庁三の丸尚蔵館で開催中の「御製・御歌でたどる両陛下の30年」展を拝観してまいりました。一対形式で詠われた両陛下の和歌——二重唱——の全体が、いままさに開かれようとする次の令和の御代に対して、どれほどの輝かしい啓示でありうるかを望見して、感動を新たにいたしました。

皇恩への限りなき感謝をこめて、

平成三十一年四月一日

竹本忠雄しるす

—— 目次 ——

玲瓏と詠いあげられた二重唱……………	11
もう一つの「失われた二十年」と昭和天皇の「憂国サイクル」…	15
昭和天皇御製と美智子さま御歌の接点……………	19
垂直軸と奥行き——両陛下下の挽歌……………	23

「岸」のお題と東日本大震災……………	33
「幸」——個の幸福とそれを越えるもの……………	36
「笑み」の先触れと悠仁親王のご生誕……………	41
「光」に先行した「生」のヴィジョン……………	46
六十年間に三たび「光」の主題……………	48
「寂光」——永遠の二重唱……………	52